

社会

被災地医療貫き移住、宮城・石巻へ 神戸の医師

いいね!

拡大+



9月末から雄勝町の診療所長として被災地の地域医療を担う小倉健一郎さん＝神戸市中央区

国内外の大規模災害現場で救護活動に携わってきた整形外科医小倉健一郎さん＝神戸市中央区＝が4日、東日本大震災の被災地へ旅立つ。宮城県石巻市雄勝（おがつ）町の仮設診療所長に赴任。「自分の専門性を生かし、地域再生に向けた取り組みの一翼を担いたい」と骨をうずめる決意を固めた。

小倉さんは医師歴20年。国際医療援助団体「AMD A兵庫県支部」（明石市）に所属し、スマトラ沖地震（2004年）、中国・四川大地震（08年）など、海外での医療支援を多数経験してきた。東日本大震災でも発生直後から2度、宮城県入り。各地の避難所で、高齢者らの診察にあたった。

雄勝町は県北東部、太平洋に面したリアス式海岸の入り江が美しい町だが、震災で町の8割が津波にのまれ、7割以上の世帯が家を失った。3階建ての市立病院も屋上まで津波が襲来し、患者や医療関係者ら計65人が犠牲に。住民約4300人のうち約6割が地区外に移住するなど、町は存亡の岐路に立つ。

市は無医地区解消を目指して町内に仮設診療所開設を決定。小倉さんは被災地への強い思いから「長期医療の勤務可能」と市に売り込み、9月末に所長として赴任することになった。

診療所は床面積117平方メートルのプレハブ平屋。診療科目は内科、外科、整形外科。住まいは市が借り上げたアパート（2DK）で、診療所まで車で1時間の通勤になる。

災害弱者に寄り添い続けてきた医師人生の締めくくり。不安よりも希望に胸が膨らむという小倉さんは「医療活動以外にも、地域再生に向けたボランティア活動などにも息長く参加していきたい」と話している。

（宮路博志）

【特集】東日本大震災

（2011/09/03 15:30）

拡大+



プレハブの診療所建設に向けて整地された＝8月30日、宮城県石巻市雄勝町